

領土・主権展示館 企画展

近代日本の夜明けと 離島の編入

明治日本の
フロンティア

2023.1.24 TUE - 4.9 SUN



明治丸
写真提供: 函館市中央図書館



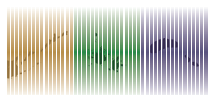
南北大東島通用引換券
写真提供: 南大東村立ふるさと文化センター



尖閣諸島のアホドリ (『少年』15号 1904年)
所蔵: 国立国会図書館



史跡「北大東島燐鉱山遺跡」 写真提供: 北大東村教育委員会



領土・主権展示館

NATIONAL MUSEUM OF
TERRITORY AND SOVEREIGNTY

ごあいさつ

領土・主権展示館へのご来館ありがとうございます。このたび領土・主権展示館では、企画展「近代日本の夜明けと離島の編入-明治日本のフロンティア-」を開催することとなりました。

皆さんは、学校の授業で、日本の南端が沖ノ鳥島であるとか、東端が南鳥島であるなどと習ったご記憶があることでしょうか。また、天気予報などで大東諸島についてよく目にされることと思います。

それでは、これらの島々が日本の領土となった経緯についてはご存知でしょうか。主に明治期、日本人冒険者たちがこれらの島々に進出しました。それがきっかけとなってこれらの島々は日本の領土となりました。

では、本土から遠く離れた孤島になぜ日本人冒険者たちは進出したのでしょうか。研究者の長年の調査の結果、この疑問に対する答えがだんだんとわかってきました。実は、アホウドリをはじめとした鳥類、特にその羽毛と糞を得るため、一獲千金を求めた日本人の探検者たちがこれらの島々に進出したことがわかってきたのです。

この企画展では、これらの離島が日本の領土となった経緯を見てみたいと思います。

この企画展の開催は、関係自治体、専門家及び関連団体をはじめ多くの方々のご協力により可能となりました。関係各位に深く感謝を申し上げます。

※この企画展の展示は、必ずしも政府の見解を表すものではありません。

令和5年1月

領土・主権展示館

序章

国境の確定のための努力

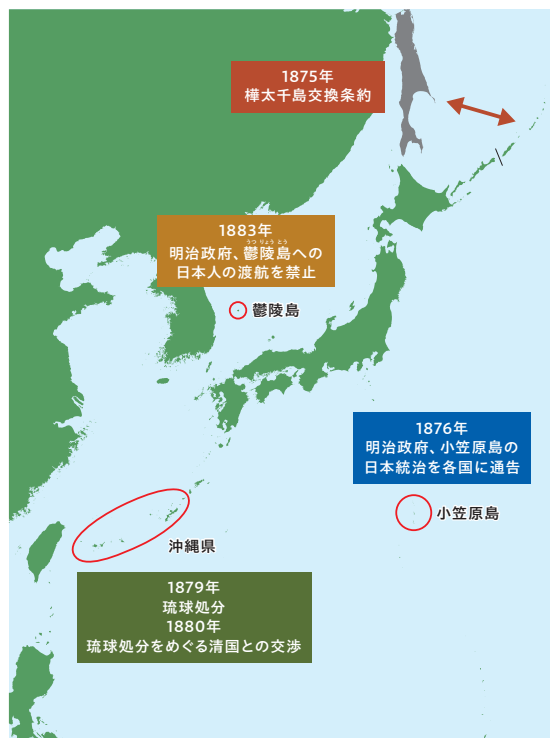
江戸時代の日本は独自の国際関係への見方を有していましたが、ペリーの来航後、欧米諸国と条約を締結し、江戸幕府は近代国際法を吸収しようと試みます。明治政府も、江戸幕府が締結した条約を継承し、近代国際法に基づき、領土の確定を試みます。

アホウドリと「南方探検ブーム」

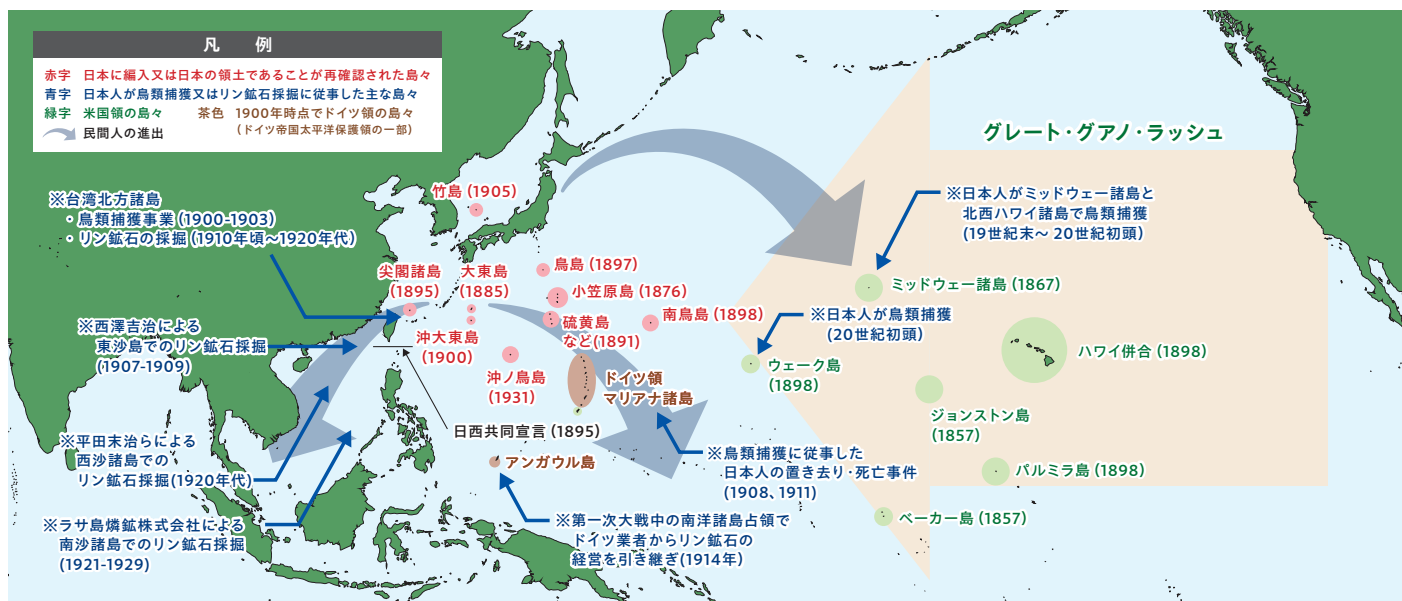


玉置半右衛門
出典：国立国会図書館ウェブサイト

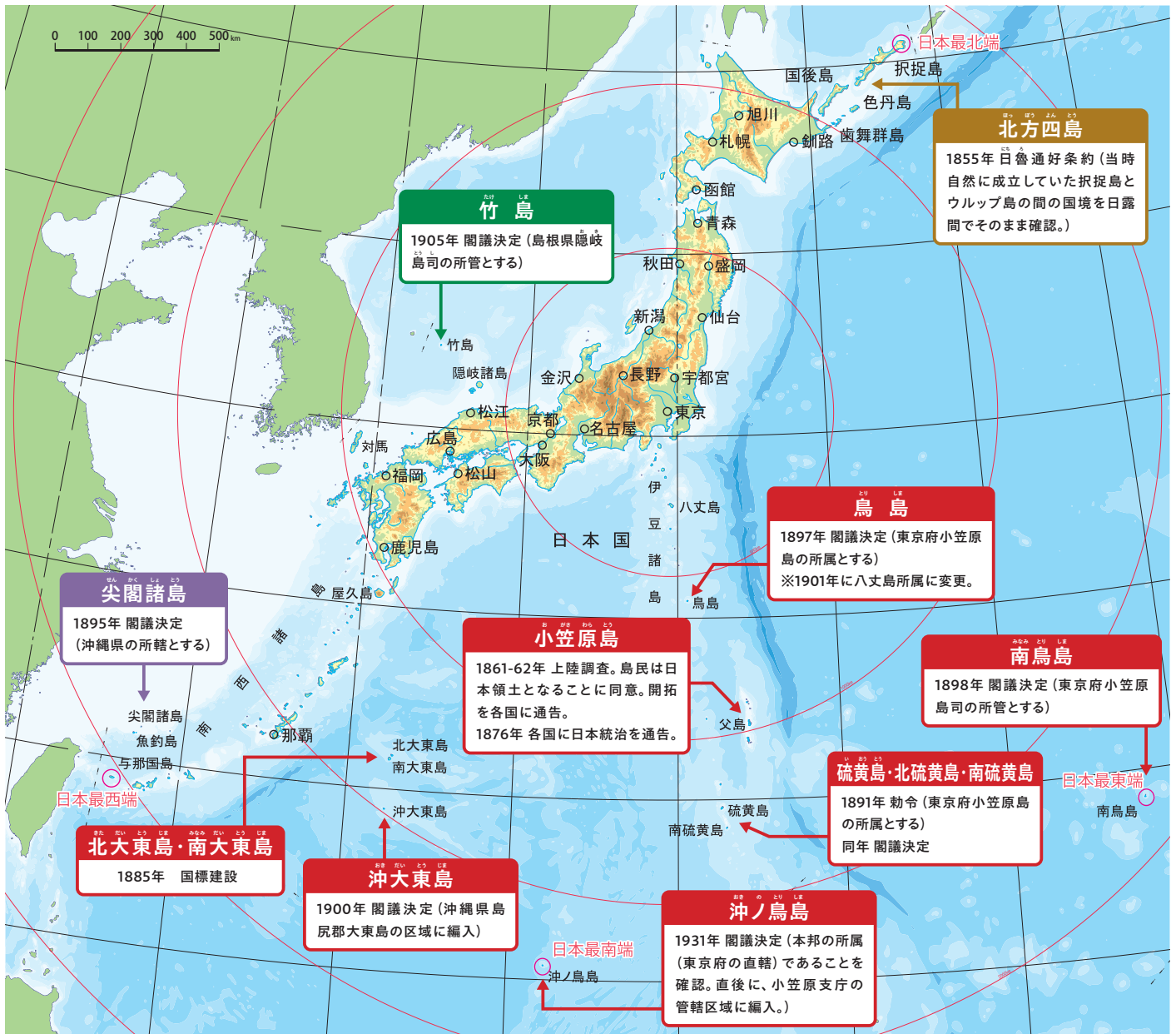
玉置は、アホウドリの一大繁殖地であることが知られていた鳥島に目をつけ、巨万の富を手に入れます。玉置の成功に刺激され、民間人が経済的な機会を狙って日本の南側に散在する島々への渡航を試みる「南方探検ブーム」が起こります。



1883(明治16)年頃までの明治政府による国境確定のための取組



「南方探検ブーム」による日本人の鳥類捕獲活動とグアノ・リン鉱石採掘(1930年頃まで)



日本が、近代国際法にしたがって、周辺の島々を日本に編入した／従来からの日本領土であることを確認した年 (赤囲み: 今回ご紹介する島々) ※地図は現在の地図。国土地理院作製「日本全国」上に記入。

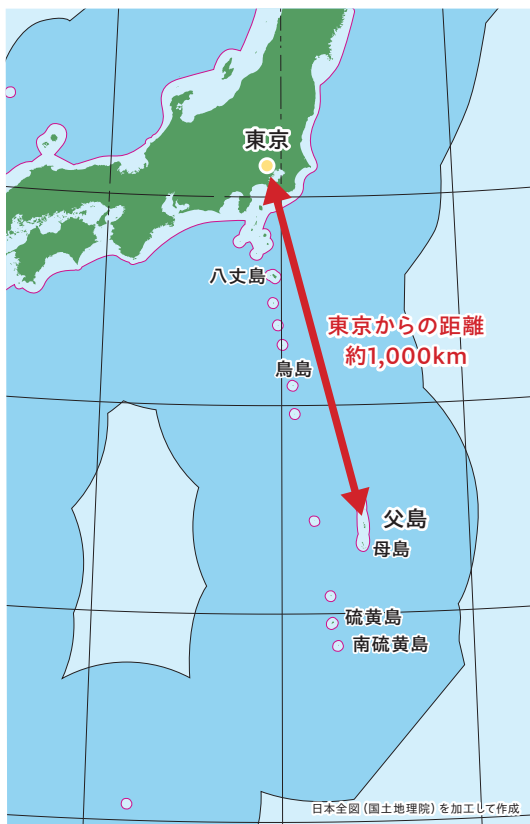
	面積	現在の人口	戦前の主な産品	主な「開拓者」
小笠原群島	71.4km ²	2,572人 (2022年10月現在)	サトウキビ、カツオ、マグロ漁、捕鯨やサンゴ漁など	幕府・明治政府主導
北・南大東島	42.5km ²	1,791人 (2022年1月現在)	砂糖、北大東島はこれに加えリン鉱石、アルミナ	玉置半右衛門
硫黄島・北硫黄島・南硫黄島	32.8km ²	硫黄島に自衛隊分遣隊が常駐	硫黄、サトウキビ・果物・ココ・レモンガラスなど	田中栄二郎
鳥島 (伊豆鳥島)	4.8km ²	0人	アホウドリの羽毛	玉置半右衛門
南鳥島	1.5km ²	政府職員20数名程が駐在	アホウドリの羽毛、鳥のはく製、リン鉱石	水谷新六
沖大東島	1.2km ²	0人	リン鉱石	恒藤規隆
沖ノ鳥島	(礁内) 5.8km ²	0人	—	政府主導
(参考) 尖閣諸島	5.5km ²	0人	夜光貝、アホウドリの羽毛、鳥のはく製、かつお節	古賀辰四郎
(参考) 竹島	0.2km ²	0人	アシカ、アワビなど	中井養三郎

小笠原島

欧米各国が牽制する中、日本領土とすることに成功

1675（延宝3）年、江戸幕府は、漂流者の報告に基づき小笠原島の調査を実施しました。この調査が他国に対して先行したことが、その後の小笠原島の領有につながります。1876（明治9）年、明治政府は日本による統治を各国に通知し、国際的に日本領土として、認められます。

※「小笠原島」は現在の小笠原諸島全体ではなく、父島列島および母島列島を中心とする狭い範囲を指します。小笠原島という名前は、16世紀に小笠原貞頼（おがさわらさだより）が発見した（史実かは疑問視されている）ことに由来するといわれています。



西暦	できごと
1639年	オランダ船が父島・母島と思われる島を発見。
1670年	紀州のみかん船が母島に漂着。
1675年	江戸幕府が嶋谷市左衛門を派遣し調査を実施。
1830年	欧米人5名などが父島に入植。
1861年	江戸幕府は、小笠原の再調査・開拓のため、外国奉行 水野忠徳を隊長とする咸臨丸を派遣。
1875年	明治政府は、小笠原の再開拓着手を決定し、「明治丸」を派遣。
1876年	日本による統治を各国に通知。国際的に日本の領土と認められる。
1880年	東京府の管轄となり、東京府小笠原出張所を設置。
1946年	SCAPIN-677により日本の施政権から分離。
1952年	対日平和条約の発効により米国施政下に。
1968年	6月26日、小笠原諸島が日本に返還。
2011年	小笠原諸島が、世界自然遺産として登録。



父島 提供：小笠原村観光局



母島 提供：小笠原村観光局

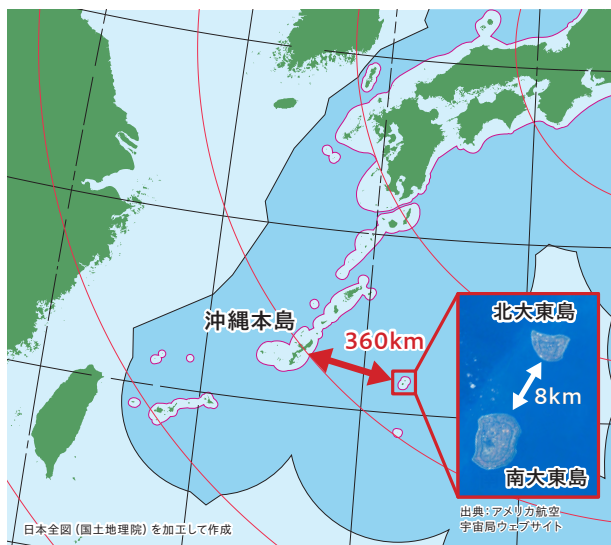
	面積	人口	世帯
父島	24km ²	2,120人	1,239世帯
母島	21km ²	452人	271世帯

(2022/10/1現在)

北大東島・南大東島

複雑な歴史を持つ砂糖の島

北大東島と南大東島は、欧米諸国のアジア進出の中、離島監視強化のため1885年に国標が建設され、沖縄県に編入されました。その後、1900年に玉置半右衛門関係者が開拓のために進出。砂糖の生産で栄えますが、町村制が施行されず、戦前、製糖会社の社有地だったなど複雑な歴史を有します。



	面積	人口
北大東島	11.9km ²	561人(2022年1月現在)
南大東島	30.52km ²	1,230人(2022年1月現在)

西暦	できごと
前近代	琉球(沖縄)では「ウファガリ」(「東のはて」の意味)の名で知られる。
1820年	ロシアの帆船が付近を通過、「ボロジノ諸島」と名付ける。
1885年	沖縄県が調査。国標建設。沖縄県に編入。
1900年	玉置商会の関係者が南大東島入植。
1903年	玉置商会の関係者が北大東島入植。
戦前	サトウキビ栽培(砂糖製造)が両島の主要産業に。玉置商会→東洋製糖→大日本製糖が所有する社有島に。北大東島ではリン鉱石採掘もおこなわれる。
1946年	SCAPIN-677により日本の施政権から分離。米軍軍政下で、両島に村制が施行。南大東村、北大東村が成立。
1952年	対日平和条約の発効により米国施政下に。
1964年	大日本製糖との交渉の結果、各農家の土地所有権が確立。
1972年	沖縄返還により本土復帰。



南大東島航空写真
出典:国土地理院ウェブサイト



北大東島燐鉱山遺跡 復原された貯蔵庫遺構
提供:北大東村教育委員会



南北大東島通用引換券
(玉置商会発行)
提供:南大東村立
ふるさと文化センター

硫黄島

硫黄の島の隆盛

小笠原諸島にある硫黄島は、北硫黄島・南硫黄島とともに火山列島を構成する島です。その名のとおり硫黄が採掘されたことが開拓・領有のきっかけのひとつとなりました。太平洋戦争では国内※初の陸上戦があったことでも有名です。

※戦前の「共通法」にいう「内地」を指します。



西暦	できごと
1543年	スペイン船サン・ファン号により発見されたと言われている。
1779年	イギリスのジェームス・クックの艦隊が目撃し「sulfur (硫黄) island」と命名。
1889年	田中栄二郎が硫黄採掘と漁業を目的として父島から入植。開拓がはじまる。
1891年	勅令により東京府へ編入。
1940年	町村制が施行され「硫黄島村」となる(人口1,051人)。
1945年	硫黄島の戦いが発生。
1946年	SCAPIN-677により日本の施政権から分離。
1952年	対日平和条約の発効により米国施政下に。
1968年	施政権返還。小笠原村の一部となる。

	面積	人口
硫黄島	23.73km ²	自衛隊の分遣隊が島内に常駐するほかは0人
北硫黄島	5.56km ²	0人(2022年1月現在)
南硫黄島	3.54km ²	0人(2022年1月現在)



硫黄 Ben Mills撮影



摺鉢山方向から見た硫黄島俯瞰写真
提供:小笠原村

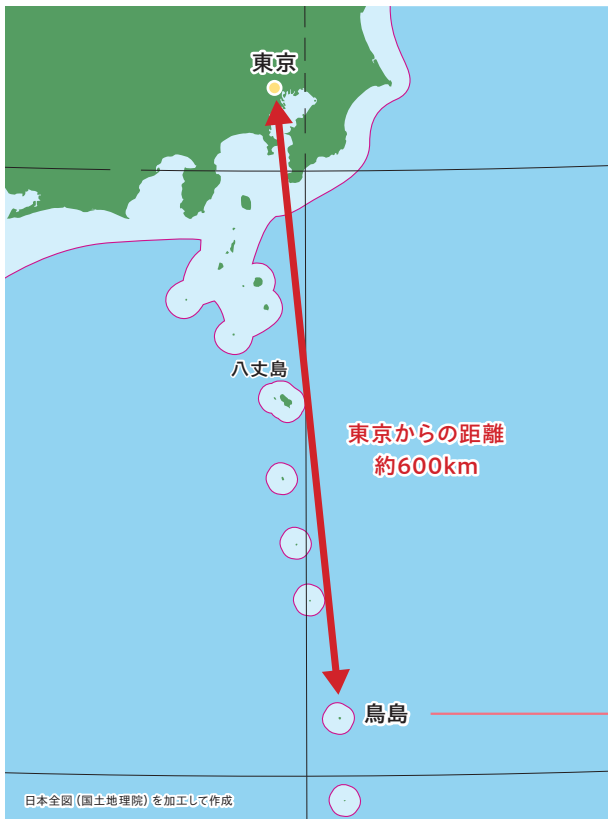


島の草野球チーム(1935年ごろ)
提供:全国硫黄島島民の会

鳥島（伊豆鳥島）

アホウドリが繁殖する活火山の島

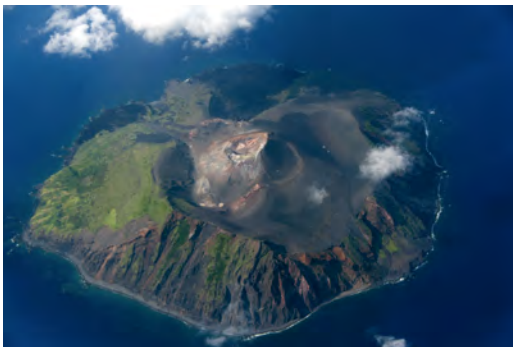
江戸時代、多くの漂流者によって認知されるようになった鳥島。明治時代には玉置半右衛門が鳥島でアホウドリ羽毛事業をはじめ、1897(明治30)年、東京府に編入されました。現在は火山活動の活発化で無人島となっていますが、アホウドリの営巣地として知られ、島全体が国の天然記念物になっています。



西暦	できごと
1681年	土佐船の漂着。(現存する最古の漂流事例。)
1887年	玉置半右衛門が鳥島でアホウドリ捕獲事業を開始。
1897年	閣議決定により小笠原島※付属となる。
1901年	八丈島の付属となる。
1902年	火山噴火で住民全員が亡くなる。
1939年	水路部(海軍省)の観測所が置かれていたが、再噴火により無人島となる。
1947年	中央気象台鳥島測候所が開設。
1965年	鳥島が国の天然記念物(天然保護区域)に指定される。火山性地震により測候所が閉鎖。

※「小笠原島」は、現在の小笠原諸島ではなく、父島列島および母島列島を中心とするより狭い範囲を指します。

直径約2.5km、周囲約7kmほどの火山島で、2002年にも噴火活動がありました。現在は無人島です。



鳥島全景
提供:海上保安庁(2020年撮影)



玉置半右衛門
出典:国立国会図書館
ウェブサイト

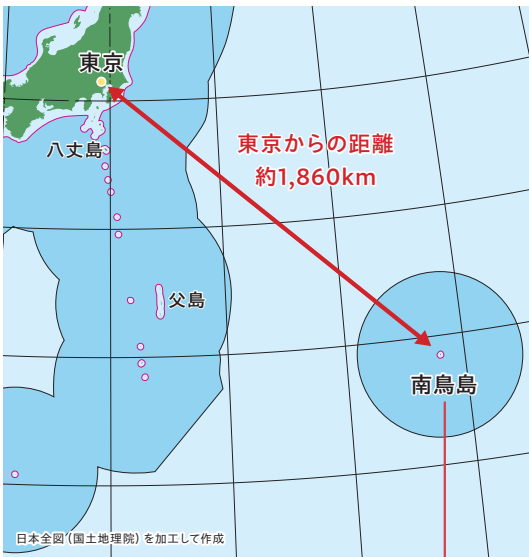


1888年頃に撮影された鳥島の
アホウドリの集団
提供:小笠原村教育委員会

南鳥島

「幻の宝島」を探して見つかった島は「現代の宝島」に

南鳥島は、東京都小笠原村に属する島で、日本の最東端として知られています。南鳥島の基線を根拠とした排他的経済水域は、国土面積より大きい約43万km²にも及び、周辺海域では貴重な海洋鉱物資源が発見されています。周囲6kmほどの小さな島は、日本にとって計り知れない大きな役割を果たしています。



【位置】

船で片道4～5日、航空機では片道4時間の距離。日本最東端に位置することから日本で一番早い「初日の出」を見ることができる場所です。

【気候】

熱帯気候と亜熱帯気候の推移帯にあります。年平均気温は26度前後。年間の気温変化が小さいのが特徴です。

面積

1.51km²

一般住民は0人。政府職員20数名程が駐在。(国土交通省、気象庁、海上自衛隊)

人口



南鳥島全景

写真提供:海上自衛隊

西暦

できごと

1543年	スペイン人、デ・ラ・トーレによって発見。(諸説あり。)
1860年頃	アメリカ人宣教師によって「マーカス島」と命名。
1896年	水谷新六が上陸、小笠原から23名が移住。
1898年	「南鳥島」と命名され、東京府小笠原島庁に編入。
1902年	南鳥島事件。
1935年	海軍気象観測所開設。
1936年	海軍大演習に合わせて飛行場建設。
1946年	SCAPIN-677により日本の施政権から分離。
1952年	対日平和条約の発効により米国施政下に。
1968年	小笠原諸島とともに日本に返還、航空派遣隊発足、気象観測所設置。
2010年	「排他的経済水域及び大陸棚の保全及び利用の促進のための低潮線の保全及び拠点施設の整備等に関する法律」が施行、「特定離島」に指定。
2011年	国による特定離島港湾施設整備の着工。

日本領編入後、あわやの一大事・・・「南鳥島事件」

1889(明治22)年マーカス島を訪れたアメリカの実業家ローズヒルは、米国政府からグアノ(鳥の糞が化石化したもので肥料となる)の採掘権を取得、1902(明治35)年に南鳥島で事業を行おうと船で出発します。新聞報道でそれを知った日本政府(1898(明治31)年7月に同島を日本領土に編入)は、軍艦を派遣、ローズヒルの船の数日前に南鳥島に到着します。その後、島についてローズヒルに事情を説明し、米船を退去させました。ローズヒルは米政府に所有権の確認と日本政府への損害賠償の要求を求めましたが、米政府はこれを拒否しました。

沖大東島

国内随一の良質のリン鉱石を誇った島

南大東島の南方160kmにある沖大東島は、欧名をラサ島といい、面積1.19km²の隆起サンゴ礁の島です。1900（明治33）年、中村十作の内務省への「ラサ島借用願」の提出を契機に、閣議決定により沖縄県島尻郡大東島の区域に編入されました。

現在は射爆場となっていますが、戦前は国内随一の良質のリン鉱石がとれることから、リン鉱石の採掘で栄えました。



沖大東島航空写真 出典：国土地理院

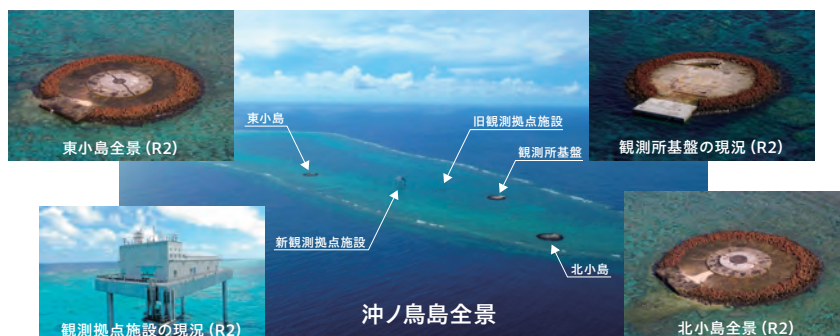
西暦	できごと
1807年	フランスの軍艦カノエニル号がラサ島と命名したとされる。
1892年	軍艦「海門」が沖大東島を調査。上陸し標柱を設置。
1900年	閣議決定により、沖大東島と命名され沖縄県島尻郡編入。
1906年	沖大東島の岩石が良質なリン鉱石と判明。
1911年	恒藤規範は「ラサ島燐鉱合資会社」を設立。本格的な沖大東島でのリン鉱石採掘を始める。
1918年	リン鉱石採掘の最盛期。島には2000人近くが居住。
1929年	世界大恐慌に見舞われ沖大東島での採掘事業いったん停止。
1945年	1933年に再開された採掘事業は、戦況の悪化により停止。
1946年	SCAPIN-677により日本の施政権から分離。沖大東島は、北大東村に編入される。
1952年	対日平和条約の発効により米国施政下に。
1956年	アメリカ軍の射爆場となる。
1972年	沖縄返還により本土復帰。

沖ノ鳥島

海洋資源が期待される日本最南端の島



日本最南端の島である沖ノ鳥島は、1931（昭和6）年に「沖ノ鳥島」と名付けられ、それ以来、東京都小笠原支庁の管轄区域に属しています。サンゴ礁でできた礁内は、北小島、東小島が所在しており、浸食を防ぐための保全対策が行われているほか、今後の利活用に向けた様々な取り組みが行われています。

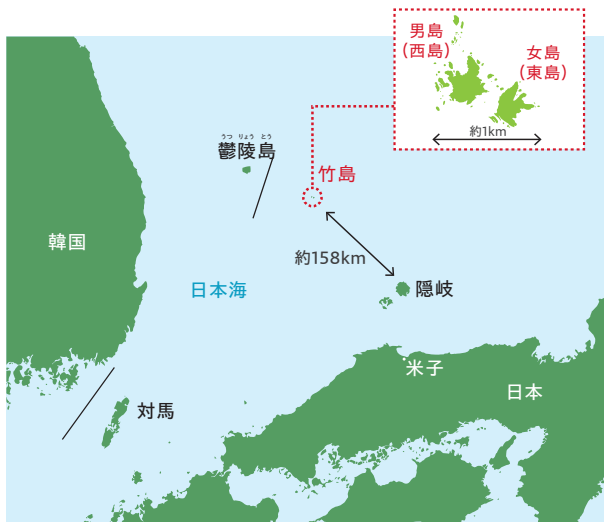


提供先：国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所

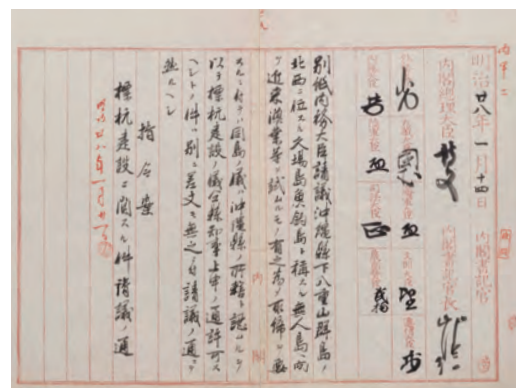
おわりに

竹島と尖閣諸島について

ここまで見てきたとおり、明治期に日本の領土に編入あるいは日本の領土であることが再確認された島々の多くは、まず民間人が経済的な機会を求めて進出し、その後、経済活動の管理などを目的に、政府により編入などの対応がとられたものです。その事情は、竹島や尖閣諸島についても同様です。



竹島を島根県に編入する閣議決定 (1905年)
所蔵:国立公文書館



尖閣諸島を沖縄県に編入する閣議決定 (1895年)
所蔵:国立公文書館

韓国や中国は、日本が侵略的な意図をもってそれぞれ竹島と尖閣諸島を奪ったなどと独自の主張をしております。しかし、竹島も尖閣諸島もそれぞれ島根県 (1905年) / 沖縄県 (1895年) に編入される以前に、朝鮮 / 中国の領土であった事実はなく、これらの編入は経済活動を契機にするものでした。

もっと知りたい方へ (研究・解説サイト)



竹島 研究・解説サイト
<https://www.cas.go.jp/jp/ryodo/kenkyu/takeshima/index.html>



尖閣諸島 研究・解説サイト
<https://www.cas.go.jp/jp/ryodo/kenkyu/senkaku/index.html>

研究・解説サイトに掲載する資料等は、政府の委託事業の下で有識者の助言を得て、調査・収集及び作成したものであり、本サイトの内容は必ずしも政府の見解を表すものではありません。

もっと知りたい方へ(学術文献)

【江戸期の国際関係について】

荒野泰典『近世日本と東アジア』(東京大学出版会、1988年)

荒野泰典編『江戸幕府と東アジア』(吉川弘文館、2003年)

羽田正編『東アジア海域に漕ぎだす1 海から見た歴史』(東京大学出版会、2013年)

【日中による近代国際法の受容について】

岡本隆司、川島真編『中国近代外交の胎動』(東京大学出版会、2009年)

岡本隆司『中国の誕生 東アジアの近代外交と国家形成』(名古屋大学出版会、2017年)

坂元 茂樹「近代日本の国際法受容をめぐる一考察(一):日韓の比較を交えて」『關西大學法學論集』第54巻1号(2004年)50-81頁

柳原正治「仕置、附庸、属国、そして主権 一近世・近代における琉球王国の「国際法」上の地位」

柳原正治編『変転する国際社会と国際法の機能 内田久司先生追悼』(信山社、2018年)

柳原正治「幕末期・明治初期の『領域』概念に関する一考察」松田竹男他編『現代国際法の思想と構造I 歴史、国家、機構、条約、人権』(東信堂、2012年)

KAWASHIMA, Shin, "China," the Oxford Handbook of the History of International Law (Oxford University Press, 2012)

YANAGIHARA, Masaharu, "Japan," the Oxford Handbook of the History of International Law (Oxford University Press, 2012)

【日本の南方の離島の編入について】

長谷川亮一『地図から消えた島々』(吉川弘文館、2011年)

平岡昭利『アホウドリと「帝国」日本の拡大』(明石書店、2012年)

平岡昭利『アホウドリを追った日本人』(岩波書店、2015年)

柳原正治「離島の日本領域編入 一硫黄島と南鳥島を中心として一」柳原正治・兼原敦子編『国際法からみた領土と日本』(東京大学出版会、2022年)

※この企画展の企画・準備に際して参考にした学術文献のうち、主なものを紹介するもので、それぞれの文献は、政府の見解を表すものではありません。

小笠原の観光の魅力を知りたい方へ



小笠原村観光協会

<https://www.ogasawaramura.com/>



小笠原村観光局

<https://www.visitogasawara.com/>

北大東島の観光の魅力を知りたい方へ



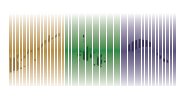
北大東島観光ナビ

<https://www.kitadaito.jp/>



(一社)南大東村観光協会

<https://www.minamidaito-okinawa.com/>



領土・主権展示館

NATIONAL MUSEUM OF
TERRITORY AND SOVEREIGNTY

[所在地] 東京都千代田区霞が関3-8-1 虎の門三井ビルディング1階 [電話番号] 03-6257-3715

[@ryodoshiken](https://www.cas.go.jp/jp/ryodo/tenjikan) [Twitter やってま](#) [ホームページ] <https://www.cas.go.jp/jp/ryodo/tenjikan>

令和5(2023)年1月 編集・発行 領土・主権展示館

